

科目	工芸Ⅱ	単位数	2	年次	2	学級	2年次A～G、I 選択者	学科	普通科 国際教養科
----	-----	-----	---	----	---	----	-----------------	----	--------------

学習の到達目標	工芸の創造的な諸活動を通して、工芸を愛好し個性豊かに表現する能力を伸ばします。美術文化についての理解を深め、生涯にわたり工芸を愛好する心情を身につけます。
使用教科書 副教材等	「高等学校 工芸Ⅱ」 日本文教出版

学期	月	学習項目	学習内容の説明
1	4	*オリエンテーション	工芸Ⅱで学ぶ内容やその意義を確認します。昨年度以上に身の回りのモノをよく観察し、感じ、何を作るか吟味して制作しましょう。
	5	*象嵌	昨年度木工で制作したスプーンに象嵌を施し、さらに美しく仕上げていきます。貝殻、プラスチック、タイル、金属、角、木の実など水分に強い素材をの組み込みます。
	6	*木彫	昨年度木工で制作した木材の余りを利用して、木彫を施したトレイをつくっていきます。木材が小さく作り辛い場合、材料を各自購入する事になります。
	7	*金工	昨年度金工でつくった作品の余った材料をつかって、すり出しリング(指輪)の制作を行ないます。
	9		削る、接合するなどの技法を使い分けて、自分のデザインした実用性の高い作品をつくっていきます。
2	10	*編組工芸	糸を組んで組紐をつくります。この後の根付に組合せます。
	11	*立体彫刻	銘木を中心に幾つかの素材を組み合わせて、根付の制作を行ないます。
	12		前期に行なった象嵌の技法を生かし、二つ以上の素材を組み合わせてつくります。
	1		
	2 3		時間配分をよく考え、各自で計画を立てましょう。

評価の観点及び評価の方法	工芸への関心・意欲・態度	1 工芸の果たす役割に関心を持ち、生活文化を尊重しようとする態度で取り組んでいるか。 2 意欲的・主体的に制作や鑑賞に取り組んでいるか。
	発想や構想の能力	1 感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取ることができるか。 2 目的や条件を把握し、工夫して発想を形に表すことができるか。
	創造的な技能	1 構造や制作手順を理解し、さらに自ら工夫して計画的な制作ができるか。 2 一年次に学んだことを含め、用具の使用法や、材料の特質を理解し、創造的な表現に活用することができるか。
	鑑賞の能力	工芸作品のよさを味わい、作品に込められた心遣いや工夫を感じ取り、自分の意見を持つことができるか。
	評価方法	毎回の授業に取り組む姿勢(欠席・遅刻などの有無や制作意欲・態度・制作方法についての理解度)を20%と、作品の完成度(機能性・オリジナル性・美しさを含む)80%をあわせて評価します。決められた提出期限までに、作品を完成させて提出することが最低条件となります。提出が遅れた場合評価の対象にならない場合があるので、厳守で提出しましょう。

担当教諭から	一年次に続き、「欲しいと思って 考えて 作って 使って……」で、また新しいことを発想する。引き続き、心も 頭も 手もすべて使ったの工芸の授業です。つくってみたら、うまくいった・いかなかった、それぞれに違った印象を持っての2年目だと思います。今年度後半は、すでに経験した素材、新しい素材、各種取り揃えての自由制作です。うまくいった素材なり、リベンジなり、新しいものへの挑戦なり、思う存分工芸を楽しみましょう。
--------	---